

性「妻は...」と話し、内(で結婚して)子どもを身(も)つたが、差別と偏見から墮胎を強いられた過酷な過去を聞かされる。隔離されひどい差別を受

## 避難所運営など助言

### 災害シンポ 佐藤さん講演

県国際交流・人材育成財団は11日、那覇市の沖縄産業振興センターで「災害危機管理シンポジウム」を開いた。東日本大震災で被災



佐藤一男さん

し、避難所の運営に携わった佐藤一男さん(52)が「東日本大震災、体育館避難所で起きたこと」と題して講演し、避難所の円滑な運営方法などについてアドバイ

した。講演では、佐藤さんが岩手県陸前高田市の避難所での実体験から「震災証明の

発行など行政しかなできない仕事をしてもらうために、避難所を決めて運営要一と指摘。い者にも水割を任せる部屋を分け決めたといまた、孤「各仮設住に野菜など介。「毎日るから、会る。枯れて

## 古林 人の

とが、今回の長編漫画を推し、きつかけになったとい。2002年3月に県庁を辞めて漫画家に転身。80判、全4巻(分売不可)で1万5200円。

## 不活性染色体構造解く

### がんなど創薬研究に期待

OIST・早稲田大・基礎生物学研米誌掲載



【東京】沖縄科学技術大学院大学(OIST)と早稲田大学、基礎生物学研究所は、遺伝子情報の読み取りが不活性化(オフ)になった染色体領域(ヘテロクロマチン)の構造を、最新のクライオ電子顕微鏡法で世界で初めて解明した。が

んやメタボリック症候群、感染症などをターゲットとした創薬研究に期待される。11日に米科学誌の電子版に掲載された。ヒトをつくる細胞は同一の遺伝子情報(ゲノムDNA A配列)持っている。皮膚や心臓などをつくるのにそれぞれ必要な遺伝子群のみを活性化(オン)にし、不要な遺伝子をオフにして異なる組織を形成している。ヘテロクロマチンと呼ばれる読み取り不可能なゲノム領域の恒常的な破壊が、がんやエイズウイルス(HIV) 解明した不活性染色体の基礎構造について説明する胡桃坂教授(9日、東京・文部科学省

「付ける」と説明した。沖繩は「那覇空港の標高が低く、津波が来ると機能しなくなるのでは。港も同様だ」と指摘。コミュニティ再建をサポートするNGOの対応が遅れることや、39ある有人離島で支援が長期間届かないなどの被害を想定するよう提案した。講演のほかにも、チームに分かれて避難所運営を疑似体験するゲームなどに取り組み組んだ。シンポには、行政職員や災害時外国人支援サポーターなど約70人が参加した。



岩手県大船渡市の小学校6年生の児童5人が8、12日の日程で沖繩を訪れている。名護市の辺野古海岸や南部戦跡などを回り、平和の尊さについて学んだ。訪れたのは三浦大和さん、巨理有沙さん、見世奈々さん、村上紅愛さん、三条優介さん。一行は11日、県内内の戦跡や米軍基地を訪れ平和学習した岩手県大船渡市の児童5人11日、那覇市・県教育庁

## 新属のテッポウエビ発見

### 伊江島の海底洞窟



新属新種として記載されたクラマミテッポウエビ(藤田喜久さん撮影・提供)

伊江島の海底洞窟で新属新種のテッポウエビが見つかったことが分かった。千葉県立中央博物館の藤田喜久准教授(44)と県立芸術大学のチームが発見し、生息環境にちなみ「クラヤマミテッポウエビ」と命名した。8日付の学術誌「ズータクサ(Zootaxa)」に掲載された。今回発見された新種のテッポウエビは甲羅の長さが6mm程度の小型種。目が小さく、脚が細長いなどの洞窟環境下に生息する甲殻類の特徴を備えている。ただ、頭胸甲、はさみ脚、歩脚などの形態がこれまで知られているテッポウエビ類とは異なり、テッポウエビ類に特徴的な大きなはさみも持っていないことから新属の新種として記載された。藤田准教授らのチームは今回の新種を含め、この海底洞窟で新種の甲殻類5種を発見。また、洞窟環境に生息するテッポウエビ類は現在までに15種類しか知られていないといい、「新属はなかなか見つけられないので発見できてうれしい。伊江島の海底洞窟は特殊なので、調査を進めていけば今後とも新種の生物が見つかる可能性は大きい」と期待した。

## 暗闇に潜む

新属新種として記載されたクラマミテッポウエビ(藤田喜久さん撮影・提供)